

外来語と英語教育(1)

- 小学校高学年教科書に表れた外来語リスト -

1978年2月9日

この研究に携わった研究員

森永 誠

石津谷 進

萩野 浩

長 勝彦

山口 政治

安原 修三

目 次

はじめに

外来語と英語教育(1)

- 小学校高学年教科書に表れた外来語リスト -

序	15
目 的	17
調査及び資料の整理	17
追 記	19
・ 外来語(カナ表記)語いリスト(アイウエオ順)	19
・ 外来語(英語)語いリスト	22
・ 固有名詞のリスト	23
・ 記号のリスト	24

目次は発表当時のもので、ページの示されていない項目は、このダイジェスト版では省略されています。

はじめに

- 省略 -

外来語と英語教育(1)

- 小学校高学年教科書に表れた外来語リスト -

序

日本人が英語を学習する場合の負担と、ヨーロッパ語系の人々が英語を学習する場合の負担の差異について考える場合、〔日本語と英語〕と〔ヨーロッパ語系と英語〕の間には、文の構造・音声（特にかぶせ音素）・語い・文化について、大きな差異があることは否定できないであろう。ただし言語が抱えている「文構造・音声・語い」の中では、語いにはやや異なった特徴が認められる。

日本には、漢語を貪欲に同化した歴史・事実がある。このことについては、日本語の文字、漢字・ひらがな・カタカナが漢語から生まれていること、及び千年近い時の経過が生み出した治定作用も大きな関係を持っていると考えられる。また、漢語が本来外来語でありながら、日本語の中で和語・漢語・漢語起源の語の区別があるとはいえ、日本語として扱われている事実、外来語であるという意識がほとんど失われている事実にも注目すべきであろう。

国語学辞典によれば、外来語とは「他の言語体系の資料を自国語体系に借り入れて、その使用が社会的に承認されたもの」とあるが、ここでは、漢語及び漢語起源の語を除く。従って、外来語を「16世紀中期以降日本語に入ってきて、日本語体系に借り入れられ、日本語に相当の影響を与えた西洋を中心とした諸言語」と規定するならば、これらの外来語もかなり同化が進んでいる、と考えられる。このような外来語も、「廃れるものは廃れ、残るものは残る」治定作用を経て、漢語と同じく、やがては日本語として定着することが予想される。

外来語が日本語として定着する作用が進んでいる事実としては、まず「量」として次の事実を認めざるを得ない。文字を書くときは、話すときより、ことばを注意して用いるものである。文字で外来語が書かれる比率は、話されるときと比べ、低くなる可言えよう。国立国語研究所の調査によれば、*¹昭和31年の雑誌では全体の約10%が外来語で、昭和41年の新聞では13%が外来語であるという。また*²国定教科書に用いられた外来語の数も、明治以来第二次大戦まで、根強く増加の傾向を示し、終戦とともに一気に激増しているという。*³更に、「今日の外来語の約80%は英語」になっているという。この度の調査によって採集された外来語は、小学校5、6年生が学校で曝されるものだけに限って、約950語ある。その中、英語は約720語である。同じ語が3～4の教科に表れている例もかなりある（例1）。同じ語が同一教科書の中に数回でている例もかなり見られる（例2）。

例1 . カード(4)、パス(4)、バター(4)、ガス(4)、グラフ(5)、ページ(7)

注 ()内の数は教科の種類を表す。

例2 . メートル、グラフ等。

外国語が外来語として定着するためには、意味・用法の面と、発音・語形の面で日本語的な変化を経なければならない。言語にはその言語がなりたっている法則がある。と

すれば、外国語が外来語となる場合、かなりの無理を伴いながら、そこにも法則性があるのではないかと思われる。外来語は少数の例外を除けば、外国語の内容語が変形したものであることは容易に予想できる。これは1つの法則であろう。^{*4}「ハウゲンの計算によると、アメリカ合衆国のノルウェー語およびスウェーデン語における借用語は、(名詞71~75%、動詞18~23%、形容詞3~4%、副詞および前置詞約1%、間投詞約1%)」という。[ノルウェー語、スウェーデン語 米語]と[英米語 日本語]のちがいがあるとはいえ、借用語については共通性を示すものと考えられるのではなからうか。外来語の中、機能語の例としては、アベック avec (フランス語。前置詞 名詞)、オーバー over (英語。前置詞 名詞、形容動詞。動詞)など、ごく少数しかない。このことも、アメリカにおける外来語の借用率と似ているといえよう。前国立国語研究所長・岩淵悦太郎氏は、^{*5}「日本語自身も文法上、外来語を拒否しない構造です」と述べているが、一定の法則性のある1つの外国語(英語)については、<外国語(英語)から外来語へ><外来語からもとの外国語(英語)へ>と、相互に移行できる部分をいくらかは整理できるのではないかと仮定することはできよう。

文構造の中で外来語が内容語として日本語と同化を進めている項目として、次の例をあげることができる。

- (1) 英語の名詞の多くは、外来語として、日本語の名詞に移行する傾向がある。
このバター(butter)はおいしい。
オレンジジュース(orange juice)を2杯ください。
あれはホテル(hotel)です。
- (2) 英語の動詞の中には、外来語となるとき名詞化し、サ変動詞「する」とともに複合動詞として用いられているものがある。
スタート(start)する、インタビュー(interview)する、サイン(sign)する、
ジャンプ(jump)する、リード(lead)する、ダンス(dance)する
- (3) 英語の形容詞の中には「だ」をつけて形容動詞として用いられているものがある。
ラッキー(lucky)だ、セクシー(sexy)だ、チャーミング(charming)だ
注 形容動詞の活用として<セクシー(sexy)な、チャーミング(charming)に>の
ように用いられる。

音声の関係で、外来語が内容語として日本語と同化を進めている項目として、いくつか例をあげることができる。

- (1) 英語が外来語となっているものの中、そのほとんどは内容語で、それも名詞・動詞・形容詞である。これらの語は強形で発音される。
- (2) 母音・子音の発音については、「外来語から英語へ」戻す整理を行うことが必要となろう。<英語から外来語に>どのような音変化を伴ってなったか、が整理できれば、<外来語から英語へ>戻すことは、いくらか整理されよう。例えば、2重母音について、外来語の[エー]は米音の[ei]に、外来語の[オー]は米音の[ou/ɔ̃]に移行する。

ケーキ cake [keik]、レース rac [reis]
コート coat [kout]、フォークダンス folk dance [fó uk dans]

スポーツ sport [spɔ:t]、フォーク fork [fɔ:k]

(3) かぶせ音素の中 modification stress pattern については、それらの英語が外来語となった場合、前の語のピッチが後の語のピッチより高く発音される。一方、対比を伴わない場合は、次のように整理することができる。

〔第1強勢 + 第3強勢〕となるもの

「名詞 + 名詞」 girl friend ガールフレンド

「動名詞 + 名詞」 frying pan フライパン

〔第2強勢 + 第1強勢〕または〔第1強勢 + 第1強勢〕となるもの

「過去分詞 + 名詞」「現在分詞 + 名詞」 curried rice カレーライス

「形容詞 + 名詞」 cold meat コールドミート

この調査を進めている時に強く感じたことは、生徒が理解している外来語の数が非常に多いことである。しかもその中には、使用度の高い意味が理解されている外来語(英語)が多く含まれている、ということである。これらの外来語(英語)の意味について、英語教育の場で、生徒の知識を0と仮定してすすめているいままでのあり方について、疑問を持ったことも事実である。

目 的

外国語学習の中、特に英語の初歩の学習において、外来語(英語)の使用は学習者の語い負担を軽減することができるか、あるいはできないか、という問題はまだ明らかにされていない。しかも、英語の意味項目の中で、使用度の高いものが外来語となっている例が多い。従って、これらの外来語(英語)を用いることによって、語い負担を軽減することができるとするならば、どのように整理することが必要条件であるか。このことについても明らかにされていない。文構造の中で、外来語(英語)が内容語として同化を進めている項目は、いくらかは整理できよう。音声についてもいくらかは整理することが可能であろう。

外来語(英語)を英語教育にどのようにとり入れることができるか、このことについても明らかにされていない。また、音声の関係をどのように整理して生徒に与えるとよいか、このことも明らかにされていない。英語が外来語になる場合、殆どの inflection が落ちる傾向があるから、逆に外来語(英語)を英語に戻す場合、どのように inflection を補足すればよいかを、なんらかの形で整理することが可能かもしれない。音声の関係で、外来語(英語)を英語にもどす基本的な項目もいくらかは整理できよう。それらのことを英語教育にとり入れることが可能かもしれない。

このような諸問題を解決する手がかりを得るためには、まず、妥当な資料の開発・整理が必要である。「小学校高学年に表れた外来語リスト」を作成することとした理由は、その試みの一つとしてである。

調査及び資料の整理

1. この研究の資料源として次の(1)、(2)が選ばれた。

- (1) 昭和52年度検定教科書 小学校5・6年用 7教科(国・社・算・理・音・図・家)

(2) 昭和51年度検定教科書 小学校6年用 7教科(同上)

注1. 体育に関しては副教材を使用した。

注2. 上記(1)は東京都23区の70%強の児童が使用しているものである。

2. この資料源から採集された外来語を、東京都の中学校一年生を対象として、昭和52年10月～11月に調査した。

3. 調査の方法は、それぞれの語について40名の生徒に〔 - 知っている、意味がわかる、 - あいまいにしかわからない、× - わからない〕の3つに分けて解答させた。

注 これらの生徒は、昭和52年検定教科書1-(1)は使用していない。

4. 各語についての 印の数を百分率にしたもの、即ち通過率をリストに示してある。

4以上の教科に表れた語については、最大・最小の数を除き、平均値とした。2～3の教科に表れた語については平均値とした。

5. 外来語(アイウエオ順)カナ表記語いリストは、すべての採集した外来語を収めた。

6. 外来語(英語)語いリストに入れた基準、及び除外した基準は次の通りである。

(1) リストに入れた基準

1) 英語を通過した語

2) 異言語間の allophone

例 lion ライオン

3) 和製英語の中 inflection(複数のs、過去分詞のed、ing等)の脱落した語及び句

例 frying pan フライパン

4) 意味、用法の中、使用度の高い語及び句 例 jump ジャンプ

5) 意味、用法の中、使用度の低いものは注をつけて入れる。

例 iron アイロン 注。「鉄」でなく「アイロンをかける」

6) 品詞の転用したものには注をつける。

例 sign サインする 注。動詞から名詞に転用

注 g.m.などの記号は、別リストとした。

(2) リストから除いた基準

1) 英語以外の外来語

例 ブリキ blik(オランダ語)

2) 語形が大幅に省略されたもの

例 テレビ television

ワンピース one-piece dress

3) 英語の組合せにない和製英語

例 ルームクーラー air conditioner

4) 和製英語にも英語にもあるが、英語の意味と異なる意味で用いられるもの

例 サイダー cider, cyder 注。「1.

リンゴジュース 2.リンゴ酒」日本の

サイダーは soda pop

5) 英語とその他の外国語の合成語

例 メロンパン melon(英語) pao(ポルト

ガル語)

6) 地名・国名・人名等の中、通過率70%以下の語

注1. 基準として用いた辞典: 荒川惣兵衛『外来語辞典』角川書店 1967.1977増補
その他 Random House English Dictionary(小学館)、World Book Dictionary(Thorndike)を

参考とした。

注2. 綴りは米語式とした。

- 参考文献 * 1. 外来語「ことば」シリーズ4 文化庁 P.8
 * 2. 菅野謙：外来語とマスコミュニケーション：外来語「ことば」シリーズ4. 文化庁 P.8
 * 3. 石綿敏雄：外来語の歴史：言語2. 大修館 P.29 1978
 * 4. 下宮忠雄：外来語の言語学：言語2. 大修館 P.49 1978
 * 5. 外来語「ことば」シリーズ4 文化庁 P.20

付記1 次年度以降の研究テーマとしては次の項目を持ちこしとする。

1. なにを検証するか 例 使用度の高い意味を含んでいる外来語(英語)を用いることによって、語い負担を軽くすることができるか。
2. 決定された項目を検証する方法
3. 外来語(英語)と音声の関係
4. 外来語(英語)と inflection の問題
5. 外来語(英語)を授業で活用する方法、等。

付記2. 本研究の検証の方法等については、研究員の了承のもとに、語学教育研究所研究員の間で検討されている。

追記

英語自身、その80%が外来語であると言われています。従って、英語の語源を求めて行くと、ギリシャ語、ラテン語を始め、フランス語、北欧語等各国語に遡ることになります。そのため、英語の辞書にのっている語は、その起源については触れないこととしました。また荒川惣兵衛氏の『外来語辞典』で英語としてとりあげている語のうち、英語の辞書にのっていないものの取り扱い等、迷ったものもかなりありました。このような語については 印を付しました。

本研究について、まちがった考え方、まちがった分類、誤記等があることと思います。それらの件については、下記あてお教えいただきたいと思います。

研究部 森 永 誠 石津谷 進
 萩 野 浩 長 勝彦
 山口 政治 安原 修三

連絡先
 - 省略 -

. 外来語(カナ表記)語いリスト(アイウエオ順)

アーチ	80	
アール	95	
アイデアスケッチ	68	
アイリス	40	
アイルランド	100	

アイロン	1 0 0	「鉄」ではなく「アイロンをかける」
アウト	1 0 0	
アウトラインステッチ	7 0	
アカシア	6 3	(ポルトガル)
アクション	5 3	
アクセント	7 3	
アコーディオン	1 0 0	
アザレア	2 0	
アジア	8 5	
アスパラガス	9 3	
アスファルト	9 3	
アプリケ	8 8	
アテンポ	7 8	(イタリア)
アドベンチュア	8 5	
アトリエ	8 5	
アナウンサー	1 0 0	
アノラック	4 3	
アパート	1 0 0	(和) apartment house
アブシンベル	2 3	神殿
アフリカ	8 4	
アポロ	9 3	
アマゾン	9 5	
アメリカ	8 8	
アメリカインディアン	9 5	
アラスカ	9 5	
アラビア	1 0 0	
アラブ	1 0 0	
アルカリ	8 3	
アルコール	9 8	
アルコール・ランプ	1 0 0	
アルジェリア	6 3	
アルゼンチン	9 8	
アルタイル	3 3	(Altair) アラビア
アルト	9 0	
アルバム	8 5	
アルファベット	1 0 0	
アルプス	9 8	
アルペンホルン	5 8	(ドイツ)
アルマイト	1 3	(和)

アルミニウム	9 5	
アンクル トム	5 8	
アンゴラ(うさぎ)	5 0	
アンジェリウス	5 8	(ラテン)
アンダーハンドパス	6 8	
アンデス	8 5	
アンテナ	1 0 0	
アンドロメダ	8 0	(星雲名)
アンモニア	9 3	
イーグル	3 3	
イースト	7 0	
イギリス	9 5	
イスラエル	8 0	
イスラム	8 3	
イタリア	9 8	
イラン	5 0	
インカ	9 3	(ポルトガル)
インキ	1 0 0	
インタビュー	1 0 0	
インディオ	6 0	(スペイン)
インド	9 8	
インドネシア	9 5	
インフルエンザ	9 8	
ウール	7 5	
ウィーン	1 0 0	
ウイナーソーセージ	1 0 0	
ウォールナット	1 0	
ウクライナ	7 8	
ウクレレ	7 0	
ウラニウム	9 0	
エアバス	5 3	
エアポンプ	3 8	
エーデルワイス	8 0	(ドイツ)
エジプト	9 8	
エスカレーター	1 0 0	
- 以下省略 -		

・ 外来語(英語)語いリスト

注. リスト中、 のあるものは『外来語辞典』に英語としてとりあつかわれているが、他の英語辞書には載っていないもの。

acacia	{ アカシア }	6 3	
accent	{ アクセント }	7 3	
accordion	{ アコーディオン }	1 0 0	
action	{ アクション }	5 3	
adventure	{ アドベンチュア }	8 5	
air bus	{ エアバス }	5 3	
air pump	{ エアポンプ }	3 8	
album	{ アルバム }	8 5	
alcohol	{ アルコール }	9 8	
alcohol lamp	{ アルコール ランプ }	1 0 0	
alkali	{ アルカリ }	8 3	
all right	{ オーライ }	9 8	
alphabet	{ アルファベット }	1 0 0	
alto	{ アルト }	9 0	注. 音楽用語
aluminum	{ アルミニウム }	9 5	
anmonia	{ アンモニア }	9 3	
announcer	{ アナウンサー }	1 0 0	
anorak	{ アノラック }	4 3	
antenna	{ アンテナ }	1 0 0	
applique	{ アプリケ }	8 8	
arch	{ アーチ }	8 0	
are	{ アール }	8 5	
asparagus	{ アスパラガス }	9 3	
asphalt	{ アスファルト }	9 3	
atelier	{ アトリエ }	8 5	
aurora	{ オーロラ }	1 0 0	
automation	{ オートメーション }	8 0	
azalea	{ アザレア }	2 0	
back	{ バック }	1 0 0	
back board	{ バックボード }	3 8	
bacteria	{ バクテリア }	1 0 0	
badge	{ バッジ }	8 5	
bagpipe	{ バグパイプ }	5 8	注. 楽器
balance	{ バランス }	1 0 0	
ball	{ ボール }	1 0 0	

banana	{ バナナ }	1 0 0	
band	{ バンド }	1 0 0	
banjo	{ バンジョー }	3 8	
ballet	{ バレイ }	1 0 0	
bar	{ バール }	1 8	注 . 「かなてこ」
barrack	{ バラック }	1 0	
base	{ ベース }	1 0 0	
base camp	{ ベースキャンプ }	7 5	
basketball	{ バスケットボール }	1 0 0	
bass	{ バス }	9 3	注 . 音楽用語
bassoon	{ バスーン }	2 8	注 . 楽器
bathyscaph (e)	{ バスチカーフ }	8 8	
- 以下省略 -			

. 固有名詞のリスト

Africa	{ アフリカ }	8 5	
Alaska	{ アラスカ }	9 5	
Alps, the	{ アルプス }	9 8	
Amazon	{ アマゾン }	9 5	
America	{ アメリカ }	8 8	
Andes, the	{ アンデス }	8 5	
Andromeda	{ アンドロメダ }	8 0	
Apollo	{ アポロ }	9 3	
Arab	{ アラブ }	1 0 0	
Arabia	{ アラビア }	1 0 0	
Argentina	{ アルゼンチン }	9 8	
Asia	{ アジア }	8 5	
Australia	{ オーストラリア }	1 0 0	
Austria	{ オーストリア }	9 5	
Bangkok	{ バンコク }	1 0 0	
Beethoven	{ ベートーベン }	1 0 0	
Belgium	{ ベルギー }	9 3	
Berlin	{ ベルリン }	1 0 0	
Bonn	{ ボン }	9 8	
Brazil	{ ブラジル }	1 0 0	
Britain	{ ブリテン }	8 0	
Cairo	{ カイロ }	9 5	
Canada	{ カナダ }	9 8	

Canaria	〔カナリア〕	9 3
Cape Kennedy	〔ケープケネディ〕	7 8
Cassiopeia	〔カシオペヤ〕	9 5
Chili	〔チリ〕	8 8
China	〔シナ〕	5 8
Christ	〔キリスト〕	9 8
Christmas	〔クリスマス〕	1 0 0
Columbus	〔コロンブス〕	1 0 0
Cuba	〔キューバ〕	9 3
Deneb	〔デネブ〕	6 5
Denmark	〔デンマーク〕	1 0 0
Deutsch	〔ドイツ〕	1 0 0
Egypt	〔エジプト〕	9 8
English	〔イギリス〕	9 5
Eskimo	〔エスキモー〕	9 8
Eurasia	〔ユーラシア〕	9 8
Europe	〔ヨーロッパ〕	1 0 0
Everest	〔エベレスト〕	9 8
Finland	〔フィンランド〕	9 5
Ford	〔フォード〕	9 0
France	〔フランス〕	9 8
Gandhi	〔ガンジー〕	9 0
Gogh	〔ゴッホ〕	7 8
Grant	〔グラント〕	7 5
Greece	〔ギリシャ〕	9 5
Greenland	〔グリーンランド〕	9 8
Hawaii	〔ハワイ〕	1 0 0
Himalayas, the	〔ヒマラヤ〕	1 0 0
- 以下省略		

・ 記号のリスト

<i>cm</i>	〔センチメートル〕	1 0 0
<i>dl</i>	〔デシリットル〕	9 8
<i>g</i>	〔グラム〕	7 8
<i>l</i>	〔リットル〕	9 8
<i>m</i>	〔メートル〕	9 3
<i>t</i>	〔トン〕	9 3